

## 令和4年度薬学教育協議会・放射薬学教科担当教員会議 議事録

日時：2023年3月28日 12:45-13:45

会場：薬学部多目的講義室2（PS4会場）およびZoomによるハイブリッド

出席者：80名（オンライン参加者含）

### 配布資料

1. 薬剤師国家試験問題検討WG報告
2. 放射性医薬品に関する日本アイソトープ協会の活動

### 議題：

#### 1. 薬剤師国家試験問題検討WGからの報告

薬剤師国家試験問題検討WGの加藤真介先生（横浜薬科大学）により、第108回薬剤師国家試験での放射関連問題についてのWGによる検討結果が報告された。

4問（+1問 参考問題）の出題であり、第108回では、実務の必須問題に放射性医薬品が取り上げられたことが紹介された。また、理論問題に関し、今後も、放射の基礎と応用（放射性医薬品を含む）がともに、物理あるいは衛生の問題としてコンスタントに出題されることが望ましいとのコメントがあった。

また、以下の点における改善の可能性がコメントされた。

・一部の選択肢（ $\beta$ -線の吸収曲線、じゃがいもへの照射）は薬剤師国家試験の設問として適切か。

・問136の選択肢で取り上げられている $^{239}\text{Pu}$ は難しいのではないか。

・半減期や減衰計算式などを使う計算問題があってもよい。

・実践問題での出題がなかった。放射性医薬品については、取扱だけではなく、効果・効能、調製・管理あるいは病院薬剤師としてできることなど薬剤師の存在意義を問うような問題の工夫が好ましい。

ただし、全体としては、放射薬学に関する問題が広い領域から出題されており、基本的な知識の有無を評価できる良問であるとのコメントであった。

#### 2. 放射性医薬品に関する日本アイソトープ協会の活動

間賀田泰寛先生（浜松医科大学）より、放射性医薬品に関する日本アイソトープ協会の活動として、1) 放射性医薬品に関する教育資料の紹介、および 2) 新しい放射性医薬品についての情報提供があった。

##### 1) 放射性医薬品に関する教育資料の紹介

日本アイソトープ協会のHPより、放射性医薬品に関する教育資料にアクセス可能であり、ダウンロードし講義等にも利用可能であることが紹介された。

また、併用薬による放射性医薬品の体内挙動の変化に関しても情報が掲載されていることや、放射性医薬品開発研究、分子イメージング研究の進め方についての情報が掲載されていることが紹介された。

## 2) 新しい放射性医薬品についての情報提供

この10年で国内承認された診断用放射性医薬品8品目、治療用放射性医薬品4品目の情報提供があった。また、海外では承認されているものの国内未承認の薬剤として14品目が紹介された。

さらに、薬剤師の核医学への関わりとして、化学と生物学を基礎とした医薬品に関する知識を有する専門家としての積極的な関与の可能性が話された。放射性医薬品取り扱いガイドラインおよび核医学会認定薬剤師についての紹介とともに、2022年度診療報酬改定において、「放射性医薬品の管理に当たっては、専門の知識及び経験を有する放射性医薬品管理者を配置することが望ましい」旨が追加されたことが紹介された。

これに関し、「核医学認定薬剤師制度を始めて現場でどれだけ人数が増えたか」との質問があり、「エビデンスとしての数字はないが、日病薬が全国の病院を対象に毎年やっているアンケート調査項目に入れていただいたため、今後は数字を示せると考える」との回答であった。

## 3. 次回の紹介

次回世話人の廣瀬農先生（星薬科大学）より、次回の教員会議の実施について紹介があった。現在のところ、日時と開催形式は未定である。

以上、議事の経過及び結果を明確にするため、本議事録を作成する。

令和5年3月30日

北海道大学 小川美香子